

《担当者名》柳田早織

【概要】

発声発語障害のうち、音声障害、機能性構音障害、吃音について学ぶ。

【学習目標】

音声障害、機能性構音障害、吃音について、その症状、評価・診断方法、治療法を理解する。

1. 音声障害の定義と種類およびその特徴について説明できる。
2. 音声障害の評価法について説明できる。
3. 機能性構音障害の定義と種類およびその特徴について説明できる。
4. 機能性構音障害の評価法について説明できる。
5. 吃音の定義および特徴について説明できる。
6. 吃音の評価法について説明できる。
7. 音声障害、機能性構音障害、吃音の治療法について説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1) 2	音声障害	音声障害の種類と特徴 ・器質的病変を伴うもの ・声帯運動障害によるもの ・その他	柳田早織
3) 5	音声障害	検査・評価 ・問診 ・聴覚心理的評価 ・喉頭内視鏡検査 ・音響分析 ・発声の能力と機能の検査 ・自覚的検査	柳田早織
6	音声障害	音声障害の治療 ・外科的治療 ・薬物治療 ・音声治療	柳田早織
7	機能性構音障害	機能性構音障害にみられる構音の誤り ・発達途上にみられる誤り ・異常構音	柳田早織
8) 10	機能性構音障害	評価・診断 ・情報収集 ・構音検査 ・結果の分析	柳田早織
11	機能性構音障害	治療の概念、原則	柳田早織
12	機能性構音障害	訓練プログラムの立案	柳田早織
13	機能性構音障害	誤り方・音別訓練方法	柳田早織
14) 15	吃音	定義、発生メカニズム、吃音症状 検査・評価 訓練・指導	柳田早織

【評価方法】

課題 100%

【備考】

教科書：大森孝一 編 「言語聴覚士のための音声障害学」 医歯薬出版 2015年
熊倉勇美 他 編 「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版」 医学書院 2015年

参考書：城本修 他 著 「STのための音声障害診療マニュアル」 インテルナ出版 2008年

廣瀬肇 著 「音声障害治療学」 医学書院 2018年
日本音声言語医学会・日本喉頭科学会 編 「音声障害診療ガイドライン2018年版」 金原出版 2018年
阿部雅子 著 「構音障害の臨床 - 基礎知識と実践マニュアル - 改訂第2版」 金原出版 2008年

【学習の準備】

解剖生理学、音声学、音響学、神経学、音声言語聴覚医学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学などの関連基礎科目をよく復習しておくこと。(80分)

配布資料と教科書の重要な用語の定義を調べ必ず予習・復習を行うこと。(80分)

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP3) 言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

柳田早織（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、音声障害、機能性構音障害、吃音のリハビリテーションに関する基本的知識および実践について講義する。